

ホクホクとした食感と甘さが自慢

渡辺交配

にしきだいこく

錦大黒

よいタネ ワタナベ

カボチャ

規格:

小袋

20ml袋

1dl袋

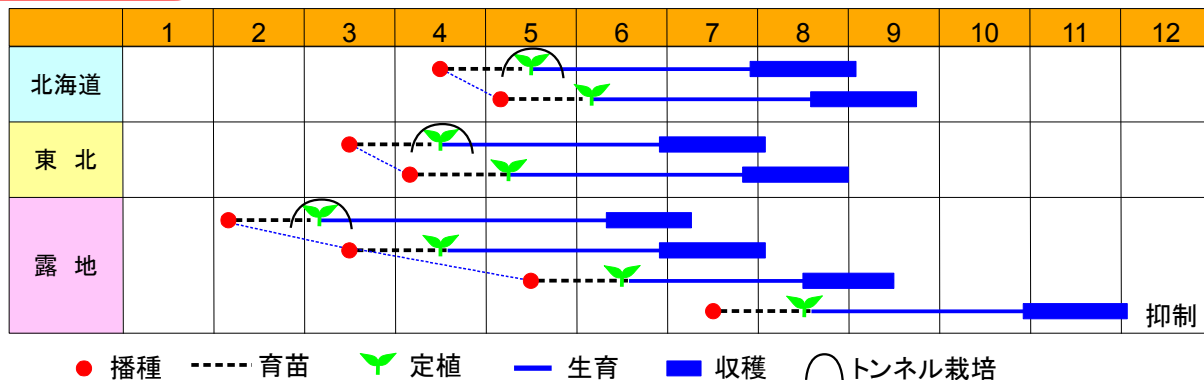
## 特 性

第40回千葉県野菜品種審査会 1等特別賞受賞

- ① 草勢強く、低温伸長性に富み、栽培管理が容易。  
低温時の着果、肥大性が良く、多収となる。
- ② 交配後40～45日で収穫可能となり、  
50～55日で成熟となる。
- ③ 果実は扁円形の大型で、  
1.5～2.0kgとなり、  
果揃いが良い。  
果皮は濃緑色の地に淡緑色  
の斑が入る。
- ④ 果肉が厚く、肉色は  
濃黄色である。  
肉質は、やや粘質がかった粉質で、  
甘味が強く、食味に優れる。
- ⑤ ハウス・トンネル栽培、一般露地栽培、温暖地の抑制栽培など、幅広く適応する。



## 栽培の目安



※ 収穫物の写真は、実際に収穫される野菜が写真のように完全に再現されることを保証するものではありません。  
※ 作形表はあくまでも目安です。実際には貴地の気候に応じて栽培して下さい。

メモ

野菜づくりは品種がきめて!!



渡辺農事株式会社

千葉県野田市柳沢13番地

[www.watanabenoji.com](http://www.watanabenoji.com)



一般社団法人  
日本種苗協会®  
会員番号 12-041号



みんなで食料自給率アップ!

# 渡辺交配 錦大黒 カボチャ 露地栽培例

| 月   | 3    |    |          | 4  |         |       | 5  |         |    | 6  |   |   | 7  |   |   | 8 |   |   |
|-----|------|----|----------|----|---------|-------|----|---------|----|----|---|---|----|---|---|---|---|---|
| 旬   | 上    | 中  | 下        | 上  | 中       | 下     | 上  | 中       | 下  | 上  | 中 | 下 | 上  | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 |
| 作型例 |      |    | ●        | ▲  | ●       | ●     | ●  |         |    |    |   |   | ●  | ● | ● |   |   |   |
|     | 土壌消毒 | 播種 | 耕起(ガス抜き) | 移植 | 元肥施用・耕起 | マルチ張り | 定植 |         | 交配 | 追肥 |   |   | 収穫 |   |   |   |   |   |
|     |      |    |          |    |         |       |    | 10日毎に防除 |    |    |   |   |    |   |   |   |   |   |

※ 農薬使用に当たっては地域の農業改良普及センター等の指導に従い、使用基準をまもること。

## 播種と育苗

- 播種量 本圃10aあたり播種量3dℓ。
- 苗床 パイプハウス内に電熱温床を作るか、ハウス内にトンネルを設ける。床土は市販の培養土またはもみ殻くん炭。播種床面積は6㎡。移植床は30～40㎡。
- 播種 播種床に十分灌水し、条間9cm、種子間2cmのすじ蒔きにする。覆土は1cm。地温は25～30℃。播種後は乾燥防止のため、新聞紙をかける（発芽まで）。発芽後地温を16～20℃、気温は日中24～26℃、夜間14～16℃で管理し、夜温は徐々に下げる。
- 移植 播種後7～10日、子葉展開時に、10.5～12cmのポリポットに移植する。茎葉がふれ合うようになったら早めにずらしを行う。活着後は気温は日中22～25℃、夜間11～13℃で管理し、夜温は徐々に下げ、定植前5日間程度は10℃前後で管理する。
- 摘芯 本葉4～5枚時に行う。
- 灌水 地温を下げないように、晴天日の午前中に行う。

## 本圃準備と定植

- 土壌消毒 定植前に、ネコブセンチュウを防除する。10～14日後ガス抜きを行い、さらに7日放置後に元肥施用、耕起する。
- 施肥 元肥を畑全面に散布し、ロータリー耕を行う。施用の目安は10a当たり、窒素：リン酸：カリ＝10:20:15 kg。
- ベッド 幅90cm、高15cm、通路160cmとし、定植3～4日前に、透明ポリマルチを張り、地温を上げておく。
- 定植 播種後30～35日、本葉4～5枚で定植。株間90cm、10a当たり410株。定植前日に、苗に十分灌水する。無風で温かい日に定植する。

## 定植後の管理

- 整枝 子づる3本仕立。生育の揃った子づる3本を残し、等間隔で一方向に伸ばす。孫づるは果実が着果するまでに除去する。
- 交配 人工交配またはミツバチにより、12～14節に着果させる。人工交配の場合は午後8時までに交配を終わらせる。1つる1果、株あたり3果に摘果する。
- 追肥 着果後7～10日後に草勢を見ながら窒素、カリ肥料をそれぞれ5kg程度施す。
- 敷わら つる先がマルチより先に出始めた頃、通路に敷わらをする。
- 防除 10日おきにうどんこ病、疫病、ワタアブラムシを防除するため、農薬散布する。農薬使用に当たっては、地域の農業改良普及センター等の指導に従い、使用基準を守る。
- 玉返し 収穫10日前に、果実の接地面の退色部を上に向けて、色むらをなくす。発砲スチロール製のマットの利用が便利。

## 収穫と出荷

- 収穫 着果後45～50日。試し切りをし、種子が充実しているのを確認する。収量の目安は10aあたり2t。
- 乾燥 収穫後、日陰で4～5日風乾し、果梗部の切り口を充分乾燥させる。